



カッパは本当にいるの

カッパは人間が考え出した動物

カッパは、人間が考えた空想上の動物です。それは、次のように想像されていました。カッパの身長は4～5才の子どもぐらい。カメのような「こうら」をもち、頭の上には水の入った皿があり、口はカモのようなくちばしで、手と足には水かきがあります。池や湖や川にすみ、力持ちです。陸にもすむことができ、陸では2本足で歩きます。しかし、頭のお皿の水がかわくと、急に力がぬけてしまうということです。力じまんで、すもうが大好き。好きな食べ物はキュウリです。

カッパが水中に馬を引きずりこむ話は、各地に言い伝えがあります。そのほとんどが失敗する話で、逆にカッパがとらえられてしまい、人に助けてもらったお礼に、カッパが魚を届けるなどとなっています。カッパが、水田や家の守り神とされている所もあります。

カッパのモデルになった動物は

日本の農業の中心は、水田でイネを育てることで、田植えの時期に、水が十分なかったら大変です。水は農民にとって、命の次に大切なもので、その水に関連した生き物、水神として、カッパのイメージが作られたようです。

カッパは、水辺にすむいろいろな動物の特徴をもっています。「カメ」「カモ」「カワウソ」「サル」などがモデルになっているのでしょうか。

カッパまきの名前は

カッパは、キュウリが大好物ということから、キュウリをかっぱというようになりました。それで、キュウリを巻いたおすしを、かっぱ巻きといいます。(監修・今泉 忠明)

